

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 9 / 15 }
令和4年(2022年)
No.2337

杉並のまちが
豊かなメロディーに。

人々の心を元気づける、美しい桜の花。遠くで響くのはジャズのリズム、そして阿波おどりのお囃子—杉並区区制施行90周年を記念して、杉並のまちをテーマにしたオリジナル曲、交響詩《鼓吹の桜》が誕生しました。作曲したのは吹奏楽のフィールドで第一線を走り続ける、作曲家の福島弘和さん。曲に込めた思いなどを伺いました。

特集

すぎなみピト

作曲家
福島
弘和



〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> 📄 発行: 杉並区 📖 編集: 広報課

お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が変更・延期または中止になる場合があります。最新情報は、区ホームページをご確認ください。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



杉並区区制施行90周年

まちも人々も勇気づけ、長く愛される「杉並の曲」になってほしい

区制施行90周年、「まち」をテーマに曲を作る

—記念曲を手掛けることになった時は、どんな気持ちでしたか？

作曲家として、吹奏楽の楽曲を中心に、オーケストラ曲、ときどき合唱曲などを作って20年余り。これまで100曲以上を作曲してきましたが、今回のように一つの「まち」をテーマに曲を作ったのは初めての経験でした。依頼を受けた時は、区制施行90周年という記念すべき楽曲に携われることが、素直にとってもうれしかったです。

—杉並区と聞いてどんなイメージを持ちましたか？

私の中で杉並と言えば、思い浮かぶのが高円寺にあるパーカッションの専門店。吹奏楽の練習でも何度か訪れたことがある場所です。すぐにイメージできるのがその場所くらいだったので、作曲にあたって杉並をもっと知ろうと、まちについて調べることから始めました。すると、どうやら杉並は音楽に縁が深そうだと分かってきた。阿佐谷にはジャズバーやジャズ喫茶が多くあり、「阿佐谷ジャズストリート」という地域のイベントも根付いている。中央線沿いの駅にはライブハウスがたくさんあって、ロックの文化が息づいている。そして、夏には高円寺のまちに阿波おどりの音色が響く…音楽という文化がとても豊かに育まれてきたのだと理解しました。

—そういったまちの特徴が曲のヒントになったのでしょうか？

そうですね。まちの特徴を捉え、それらの雰囲気や伝えられるように、エッセンスを少しずつ取り入れた楽曲にしたいと考えました。同時に、曲そのものの大きなテーマとしては「桜」というモチーフを選びました。杉並を流れる善福寺川の桜がすごく美しいと聞き、時期的に生で見るとは叶わなかったのですが、写真で見せてもらったところ本当に素晴らしい景色で、ぜひこの桜をテーマにしようと思えました。桜というのは美しさと共に、はかなさも持ち合わせている。そんな部分も曲で表現できればと考えて制作に向かいました。

記念曲《鼓吹の桜》の誕生。音に込めた思い

—完成した《鼓吹の桜》はどのような楽曲になりましたか？

先ほど話した杉並の特徴的な部分が少しずつ入っているのがポイントです。例えば、阿佐谷を象徴するジャズの要素としては、「テイク・ファイヴ」という古いジャズの名曲があるのですが、その曲にちなんだ5拍子を曲後半に仕込んだりしています。

—「和」を感じさせる要素も盛り込まれていますね。

そうですね。実際の高円寺阿波おどりの音源を聴かせてもらい「」チャンカ・チャンカ…」といった特有のリズムをそのまま曲に取り入れてい

るので、聴きなじみのある感じがするかもしれません。ちなみに、阿波おどりのこのフレーズは、前半は伴奏として鳴っているのですが、後半ではゆったりとしたメロディーになって奏でられています。この仕掛けは自分としても結構気に入っているので、少し注目して聞いてもらえると嬉しいです。

—曲の中で、特に重要視したポイントはありますか？

そうですね、最も大切にしたいという意味では、やはりテーマである「桜」のシーンをイメージして作った部分です。歌詞曲で言うところの、いわゆるサビにあたるメロディーで、最初・中間・最後、と3回出てきます。美しく咲き誇る桜を前にして、人の心が動くような感覚。あるいは、一年に一度だけ出会えるこの桜を人生であと何度見られるのだろうかと思う感情。このメロディーで表現したかったのは、そんな思いの数々です。楽曲の中でも特に印象に残るようにと、音楽性に富んだ表情豊かなメロディーに仕上げました。

—《鼓吹の桜》という曲名にはどんな思いが込められていますか？

頂いた資料の中に高円寺阿波おどりに関する冊子があり、そこに登場していた阿波おどりの連からヒントを得たという経緯があります。「鼓吹」という言葉を初めて知った時は、吹奏楽の「吹」だし、太鼓の「鼓」だから音楽的な言葉だと思ったのですが、調べてみるとそうではなく、「元気づける」という意味があると分かった。桜が杉並のまちを、そして人を、見守っている。みんなを勇気づけている。そんな曲のイメージにぴったりの言葉で、とてもいいなと思いました。この楽曲そのものも、杉並の皆さんを元気づけるような存在になってほしいという願いも込めて、命名しています。

—今日の撮影は弦楽五重奏でしたが、さまざまなパターンがあると聞いています。

吹奏楽、木管五重奏、金管五重奏、弦楽五重奏、弦楽合奏、そしてフルオーケストラのバージョンがあります。今日の演奏は弦楽器のみでしたが、横笛のピッコロが入るバージョンでは阿波おどりのお囃子が、よ

りリアルに表現されるのでお祭り感が増します。フルオーケストラでは和太鼓も入ります。どのバージョンもメロディーは共通ですが、曲の長さも雰囲気もそれぞれに異なるので、違いを楽しんでいただけるのではないのでしょうか。

曲というのは、日記のように記憶がよみがえるもの

—福島さんは何がきっかけで作曲家の道へ進んだのですか？

中学校で吹奏楽部に入って音楽に目ざめ、中学、高校、大学ではオーボエを吹いてきました。そんな中、作曲した楽曲が平成10年の全日本吹奏楽連盟の課題曲として採用され、それをきっかけに作曲家としての活動を始めました。

—曲を作るというのは、どのような作業なのでしょう？

僕の場合は、何百年という歴史の中で先人が作ってきた数々の名曲を聴いた時の自身の感動が、作曲のベースにあります。その感動が自分なりのフィルターを通して曲に反映されていくイメージです。ちなみに全くのゼロから作るというよりも、曲は依頼されて作ることがほとんどですから、それぞれのオーダーを踏まえて考えていく必要があります。例えば今回のような記念曲の場合はやはり華やかさが求められるし、アンサンブルの場合はちょっとした新しさを入れてほしいとお願いされることも多い。少子化の影響もあるのか、少ない人数の子どもたちでより効果的に聴こえるような楽曲を、とリクエストされたりもします。

—多様な曲を作る中で、ご自身が特に好きなのはどんな作曲活動ですか？

どんな曲も作曲に取り組むのは充実したひとときですが、自身が好きな絵本を選び、その絵本に音楽を付けるというプログラムは、とりわけ気に入っている作曲活動の一つです。作曲する上ではいつも、例えば今回の《鼓吹の桜》で阿波おどりの要素を忍ばせたように、何かしらの「仕掛け」を作って取り入れます。できあがった楽曲の演奏を聞き、その仕掛けが思い通りに作用したと感じた時はとてもうれしく、それこそが僕にとっては作曲活動の醍醐味です。

Check! /

日本フィルハーモニー交響楽団協力
区制施行90周年記念事業
交響詩《鼓吹の桜》



「元気づけ励ます」という意味を持つ「鼓吹」と、杉並区を南北に流れる善福寺川の「桜」から名付けられたこの記念曲は、杉並のさまざまな風景が織り込まれています。
弦楽五重奏の演奏動画はYouTube杉並区公式チャンネルから、また今後の演奏予定は区ホームページでご覧になれます。



YouTube
杉並区
公式チャンネル



区ホーム
ページ



—改めて、福島さんにとって「作曲」とは？

僕は作曲というのは自身にとっての日記のようなものだと思っています。過去に自分が作った曲を日常的に聴くことはないけれど、何かのきっかけで聴くと、その曲を作った当時のことがありありと思い出される。曲そのものについてだけでなく、その頃自分がどんな生活をしていて、どんなことを考えていたのかもよみがえります。

—《鼓吹の桜》も多くの方の日記に刻まれていくのではないのでしょうか。

そうならばとても嬉しいです。《鼓吹の桜》は、杉並の吹奏楽部の子どもたちが演奏することをイメージしながら作った一面もあるんです。演奏してくれた子どもたちが大人になってふとこの曲を聴いた時、「あの時こうだったな」と記憶に残っていたらうれしいです。《鼓吹の桜》が杉並の皆さんに愛され、メロディーを耳にした時に「これが杉並の曲だ」と自然に感じてもらえるくらい、長く親しまれていくことを願っています。

interview
すぎなみビト × 福島弘和
作曲家

プロフィール：福島弘和（ふくしま・ひろかず）昭和46年、群馬県前橋市生まれ。中学校の吹奏楽部でオーボエを始める。東京音楽大学卒業、同大学研究科修了。作曲を有馬礼子氏に師事し、楽曲「稲穂の波」が平成10年の全日本吹奏楽連盟の課題曲に採用されたのを機に、本格的に作曲家の道へ。平成11年「道祖神の詩」で朝日作曲賞を受賞。そのほか、下谷奨励賞を始め受賞多数。現在も吹奏楽曲、オーケストラ曲を中心に多様な作曲活動に取り組み続けている。

YouTubeで
配信中!

紙面には掲載しきれなかった取材の
こぼれ話も動画で紹介しています。



すぎなみビト
MOVIE

すぎなみビト「福島弘和さん」の
インタビューが動画でも楽しめます。
右2次元コードからご覧いただけます。



杉並区公式チャンネル

